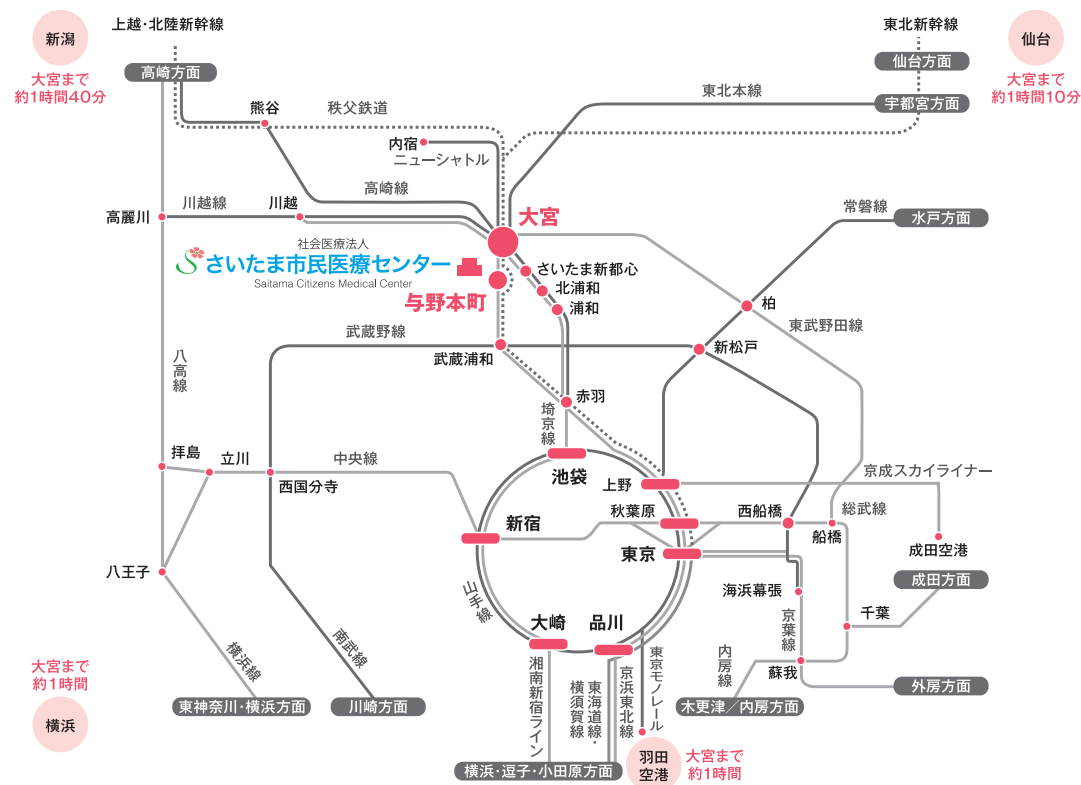


交通路線図



アクセス



Saitama Citizens Medical Center

〒331-0054 埼玉県さいたま市西区島根 299-1

[お問い合わせ先]

TEL.048-626-0011(代表) / FAX.048-799-5146

E-mail: soumu@scmc.or.jp

(窓口: 事務部総務課 採用担当)

募集詳細はHPをご覧ください

さいたま市民 研修医

検索

<https://www.scmc.or.jp/>



社会医療法人

さいたま市民医療センター

Saitama Citizens Medical Center

初期臨床研修プログラム

総合診療専門研修プログラム

小児科専門研修プログラム

内科専門研修プログラム



心と命をつなぐ、ホスピタリティを

さいたま市民医療センターは
「患者中心の医療を目指す総合医」と「専門的技術と視野を兼ねた専門医療支援」の
ホスピタリスト(病院総合医)による医療の実践を目標としています。

厚生労働省の基準案に従ったローテート方式による臨床研修プログラムを策定し、
地域医療の実践的かつ幅広い研修が可能な初期・後期研修医のための研修プログラムを作成。

その研修理念は、深い人間性に基づいた優れたプライマリ・ケアの臨床能力を修得した
医療の提供ができる医師の育成です。研修医が将来どの方向の専門医に進んだとしても
ジェネラリストとしての理念を保持できる教育を提供します。



開設	平成21年3月1日		
運営方式	さいたま市が建物等を整備し、社会医療法人が運営する公設・民営方式		
病床数	340床(回復期リハビリテーション病棟47床含む)		
診療科目	内科 呼吸器内科 循環器内科 消化器内科 腎臓内科 血液内科 糖尿病・内分泌内科 脳神経内科 リウマチ膠原病科	外科 消化器外科 乳腺・内分泌外科 整形外科 脳神経外科 皮膚科 泌尿器科 耳鼻咽喉科 リハビリテーション科	小児科 アレルギー科 放射線科 病理診断科 麻酔科 救急総合診療科



時代の期待に応える医師を目指して

院長 塩谷 猛

少子高齢化の現代の医療現場では、地域密着型の多様な能力を
備えた医師がますます求められています。当センターでは「市民の
健康と生命を守る」という理念のもと、多能性と倫理観を備えた
医師の育成を目指しています。

当センターの臨床研修プログラムは患者さんとの信頼関係を築き、
チーム医療を実践する力を養うことに重点を置いています。さらに
地域医療ならではの多彩な症例に触れながら、臨床スキルと共に職員
と患者さんとの協力と尊重の精神を身につけることができます。
スタッフ一同、皆さんの成長とキャリア形成を全力でサポートいた
します。地域医療の未来を切り拓く一歩を当センターで共に踏み
出しましょう。



初期臨床研修プログラム責任者

どこに行っても活躍できる、医師としての基本が学べます

救急総合診療部長 坪井 謙

当センターの研修プログラムは、『患者さんを診る力をつけること』を基軸としています。
それは、赤ちゃんから100歳以上の方、病気、怪我、子供を診られるジェネラリストを育て
ることです。そのため、内科、外科、小児科そして、救急をしっかり学んで頂きます。
今後皆さんが専門医、総合医のどの道を選ぶにしても、患者さんを診るというその基本は
変わりません。その土台を築くことが必ず皆さんの将来的なキャリア構築に役立つと
信じており、スタッフ全員が研修医の方々の指導にコミットしています。



総合医マインドを持った
ジェネラリストを育成する
プログラム

当センターの臨床研修プログラムは
深い人間性に基づく、かつ優れたプライ
マリ・ケアの臨床能力を発揮する医師
の育成を目指しています。大学病院で
は経験できない、都会型の地域医療
に密着した各診療科の疾患を経験で
きます。将来あらゆる領域のキャリア
形成にも対応可能な、総合医マインド
を持ったジェネラリストを育成するプロ
グラムです。

患者数が多く
幅広い臨床経験が積める
恵まれた環境

340床の規模で年間入院患者約8,000人
以上、救急車搬送年間約7,000件の救急収容
能力を持ち、小児救急車搬送はさいたま市の
約3分の1を受け入れています。内科、小児科
は外来、病棟診療だけでなく、救急外来で
多くの症例の診療を経験することができ、外科
では多くの緊急手術患者を経験できます。
さらに少子高齢化先進地域にある病院のノウ
ハウを投入するなど、次代の医療を担うため
の経験を積める環境を形成しています。

自治医大との連携により
一般的な疾患のみならず
高度先進医療も学べる

研修プログラムには協力型臨床研修病院
として自治医科大学附属さいたま医療セン
ターを組み入れ、高度先進医療を経験し
学べる機会も設けています。当センターで
プライマリ・ケア疾患としてのcommon
diseaseを多数例経験し、大学附属病院
の高度先進医療を学ぶ。これにより医師
個人の能力のさらなる拡大を図ることで、
現代の医療の質と量の偏在の問題を解決
することを目指しています。

初期・後期研修医と指導医が語る



初期臨床研修医

上級医だけでなく看護師、救急救命士、MSWなど多職種の方々から温かく指導していただいています

草野 美穂

将来は離島で働きたいと思い、地域に密着し科に捉われない当センターで総合医マインドを持った医師になりたいと考え研修先を選びました。1人1人が見据える将来に上級医、病院全体がどう関わっていけるかと自分のことのように一緒に考えてくれる雰囲気を日々感じながら研修しています。年間を通じて救急にファーストタッチし続けられ、急性期、慢性期まで幅広くみることが出来る当センターでは様々な職種の人が同じ目線で、患者さんにとってよりよい選択ができるように最善を尽くしています。働き方改革が進む限られた時間の中でも、当センターでだからこそ充実した2年間の研修を行うことができると確信しています。

初期臨床研修医

夢の実現を後押ししてくれる和やかな雰囲気の中でチームで一貫した診療に取り組めます

八塩 知樹

私は内科と小児科の研修が充実しており、コメディカルの方との垣根が低い環境に魅了され、当センターでの初期研修を希望しました。内科では初期対応を研修医が行い、入院から退院まで一貫して同じチームで診療を行うため経過を最後まで診ることができます。小児科では上級医と共に外来を担当しその子と家族の希望に耳を傾けながら診療を行います。研修医の私をチームの一員として尊重してくださり、充実感と責任感を感じて診療を行っています。コメディカルの方々からは多くの面で日々ご指導いただいています。私が実現したいことが一つに定まらないとご相談させていただいた際「どちらの夢も叶えちゃえばいいじゃん」と言っていただけのそんな病院です。試行錯誤の日々ですが当センターを選んだことに後悔は一度もありません。



後期臨床研修医

救急と内科の臨床力をどちらも伸ばせるバランスに優れた環境です

豊口 将

当センターは340床の中小病院ですが、地域医療支援病院として救急搬送を年間約7,000件、近隣の医療機関からの紹介を多く受け入れています。そのため、外来・救急・入院とありがたいことに非常に忙しい日々を送らせて頂いております。超高齢者社会において内科医に求められる能力は多く、当センターは時代のニーズに合う内科医としての役割を果たしており、後期研修医にとってそのトレーニングをする場として申し分ない環境です。また、コロナ感染症診療や災害拠点病院としての役割も担っており、医師としてやりがいを感じています。チーム医療の中で主治医に重きを置いており、1人の医師として責任感を持って診療にあたれます。ただし、困難にぶつかった時は科を問わず経験豊富な指導医陣による細やかなフォローもして頂ける恵まれた環境でもあります。特に、毎日のモーニングカンファレンスは当科の目玉でもあり、自分の臨床力を伸ばすためにとても有意義な時間となっています。



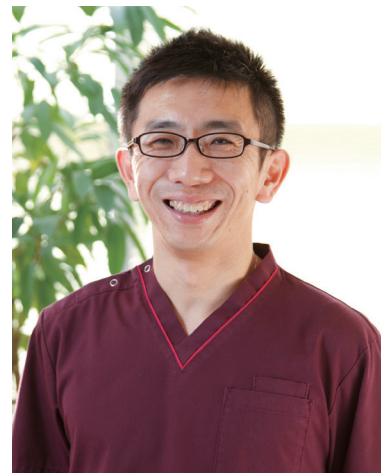
さいたま市民医療センター

指導医

患者さんの利益を基準として判断する力を

循環器内科診療副部長 中村 智弘

研修医の方にはできるだけ現場で責任を持ってもらうようにしています。実践に基づいた経験を積むことが成長に繋がるからです。しかし、ただ任せるというのではなく、上級医とのコミュニケーションが常に取りやすい環境がここにはあります。循環器科では、患者さんを診てから毎日相談し合うようにしていますし、電話も24時間繋がるようにしています。当センターには複雑な社会的背景、様々な疾患をお持ちの患者さんがいらっしやいます。多様な患者さんと向き合うという経験を積むことは、今後皆さんがどの病院で活躍されるにしても、将来的に医師としてだけでなく、人間としての深みを増すことに繋がると信じています。



指導医

小児の初期研修の場として最適な診療の最前線

小児科診療副部長 古谷 憲孝

当センターでは小児の二次診療を数多く受け入れており、初期研修では救急外来で3人目の小児科医として当直を担当し、発熱や痙攣を起こした子どもに対して、上級医の指導のもとで診察・検査し入院の判断を行います。病棟では診療チームに属して川崎病、感染症、IgA血管炎などの検査・治療を行います。多くが1～2週間で軽快する疾患なので、入院した子どもが元気に駆け回って退院する姿を見送ることができます。長期治療と判断すれば、大学病院や小児病院へ紹介するので、三次診療機関との連携も学べます。診療の最前線で疾患の季節変動や治療の変化を感じながら、未来ある患者さんに自分が何をすれば良いのか、他の医師や施設とどう連携すればよいかを学んでください。



指導医

短い期間でより多くの手術を経験できます

外科診療副部長 小峯 修

市中病院の特性から、当センターの外科は規模の割にたくさんの症例、手術を実施しております(年間700～750ケース、その内、緊急を要する手術は約250～300ケース)。その機会に立ち会える、手術に参加できるということは、短い研修医時代に貴重な経験をより多く学べるということです。実際の手術に臨んで学ぶことは膨大です。知識・手技はもちろんですが、肉体的にも精神的にも集中力、タフさを必要とします。そして手術で最も大事なことはチームワークです。その為にはコミュニケーション能力が求められるので、いろいろな経験を積んで視野の広い価値観や豊かな人間性を育ててほしいと思います。



初期臨床研修プログラム

ホスピタリストの養成を目的とし、
研修医の意思も考慮した弾力性のある構成



《研修体制》

卒後7年以上の実質的な上級医を各診療科に配置し、うち1～2名が指導医となります。指導医は、2年間を通じての評価と指導はもちろんのこと、さらにメンターとして医学・医療以外の生活面や社会面での幅広い相談に関わる体制としております。

《オリエンテーション》

診療開始前に約1週間のオリエンテーションを行い、実際の診療に必要な項目を説明・解説します。

- | | | |
|-------------------|-----------------------------|---------------------|
| 1. センターの理念と研修の目的 | 5. 診療録の書き方と病歴管理 | 9. 在宅医療・福祉・介護 |
| 2. 研修カリキュラムと研修の評価 | 6. 死亡診断書の書き方、剖検のとり方（剖検室の見学） | 10. 救急患者への対処の仕方 |
| 3. 医療事故と安全管理 | 7. コンピューターオーダリングシステム研修 | 11. 処方箋の書き方と薬剤の基本知識 |
| 4. 感染対策 | 8. 保険診療 | 《体験講座》他職種の仕事の実態見学 |

《研修カリキュラム》

4～12週で1クルールのローテーション方式。ローテーションする順番は研修医全体のローテーションの中で決定するため、順不同です。2年間の研修進捗管理を行い、臨床研修目標が到達可能となるよう配慮します。

●指導医とのマンツーマン方式

1年目

内科24週

救急12週

外科8週

外科系診療科4週

プログラム期間中の2年間は、モーニングカンファレンス・回診、各診療科のカンファレンスへの参加が必須になり、CPCを最低1回担当し、発表を行います。
毎週1回院内勉強会（後日WEB配信あり）、年間9回開催される地域医療機関とのケーススタディ（WEB配信あり）、学会発表を複数回経験することも必須です。

給 与 1年次40.4万円/月（日直・夜勤手当3回含む） 賞 与 93万円/年



《患者の受け持ち》

最大8～10名までを受け持ち、指導医や時にはシニアレジデントとともに担当医として診療にあたります。最終的な診療上の責任は指導医にあります。

《剖検・手術》

担当患者が手術または剖検になった場合、必ず立ち合い所見を回診、またはカンファレンスで報告します。



●指導医とのマンツーマン方式+各診療科の指導医が参加する場合あり

2年目

小児科8週

精神科4週

地域医療4週

産婦人科4週

選択必修16週

自由選択16週

- | | |
|---------|---|
| 必 修 | 内科、外科、地域医療、小児科、精神科、産婦人科、一般外来（内科との並行研修） |
| 選 択 必 修 | 泌尿器科、整形外科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、病理診断科、脳卒中・脳神経センター（脳神経外科・脳神経内科）、皮膚科、リハビリテーション科から3科12週 |
| 自 由 選 択 | 上記科目+自治医科大学附属さいたま医療センター各診療科より12週 |

《協力病院・施設での研修》

- 産婦人科（4週）：自治医科大学附属さいたま医療センター、さいたま市立病院、医療法人慈正会丸山記念総合病院
- 精 神 科（4週）：埼玉精神神経センター
- 地域医療（4週）：南魚沼市民病院、さいたま北部医療センター、医療法人明医研ハーモニークリニック、小笠原村診療所（4週以上）、平陽会いわさきクリニック、村上総合病院

給 与 2年次45.5万円/月（日直・夜勤手当3回含む） 賞 与 161.5万円/年